

授業科目名： スポーツ科学特論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：真田 久・友添 秀則 浅井 武・佐野 淳・西嶋 尚彦 吉岡 利貢 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。 1. スポーツ科学を構成するスポーツ諸科学に関する最新の成果と課題を理解する。 2. スポーツ文化・教育領域における社会的課題について理解し、その課題解決について考える。 3. スポーツ科学・応用実践領域における社会的課題について理解し、その課題解決について考える。			
授業の概要 スポーツ現場において活躍できる人材として必要とされるスポーツの文化および教育に関わる基本的内容、またスポーツ科学の自然科学的内容の大学院レベルを勘案して、最新の情報を交えた基礎的内容・知識を取り上げる。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念（担当：真田 久） 第2回： スポーツ科学と文化・教育1 スポーツ科学としてのスポーツ史学（担当：真田 久） 第3回： スポーツ科学と文化・教育2 スポーツ科学としてのスポーツ人類学（担当：真田 久） 第4回： スポーツ科学と文化・教育3 スポーツ科学としてのスポーツ倫理学（担当：友添 秀則） 第5回： スポーツ科学と文化・教育4 スポーツ科学としてのスポーツ教育学（担当：友添 秀則） 第6回： スポーツ科学と文化・教育5 スポーツ科学としてのスポーツ運動学（担当：佐野 淳） 第7回： スポーツ科学と文化・教育まとめ スポーツ科学としての文化・教育領域のまとめ（担当：友添 秀則） 第8回： スポーツ科学・応用実践1 スポーツ科学としてのスポーツバイオメカニクス（担当：浅井 武） 第9回： スポーツ科学・応用実践2 スポーツ科学としてのデータサイエンス（担当：西嶋 尚彦） 第10回： スポーツ科学・応用実践3 スポーツ科学としての身体情報分析論（担当：西嶋 尚彦） 第11回： スポーツ科学・応用実践4 スポーツ科学としての運動生理学（担当：吉岡 利貢） 第12回： スポーツ科学・応用実践5 スポーツ科学としてのコーチング学（個人種目）（担当：佐野 淳） 第13回： スポーツ科学・応用実践6 スポーツ科学としてのコーチング学（集団種目）（担当：浅井 武） 第14回： スポーツ科学・応用実践7 スポーツ科学としてのトレーニング学（担当：吉岡 利貢） 第15回： 応用実践領域および全体のまとめ スポーツ科学としての応用実践領域および全体のまとめ（担当：佐野 淳） 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： スポーツ科学研究方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：真田 久・友添 秀則 浅井 武・佐野 淳・西嶋 尚彦・ 吉岡 利貢 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文又は特定課題研究作成のための研究計画を立てるための基礎知識を得る。 2. スポーツ科学に関わる多様な研究方法を理解し、課題を設定できるようになる。 3. 設定された課題を達成するための研究計画を構想できるようになる。 			
授業の概要 スポーツ科学研究に関する基礎的な研究方法について、スポーツ文化・教育とスポーツ科学応用・実践領域のそれぞれの視点から理解するとともに、修士論文又は特定課題研究の作成のための研究方法を展望できる能力を涵養する。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、研究倫理（担当：真田 久） 第2回： スポーツ文化・教育の研究方法論 1 スポーツ史学の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：真田 久） 第3回： スポーツ文化・教育の研究方法論 2 スポーツ人類学の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：真田 久） 第4回： スポーツ文化・教育の研究方法論 3 スポーツ倫理学の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：友添 秀則） 第5回： スポーツ文化・教育の研究方法論 4 スポーツ教育学の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：友添 秀則） 第6回： スポーツ文化・教育の研究方法論 5 スポーツ運動学の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：佐野 淳） 第7回： スポーツ文化・教育の研究方法論まとめ スポーツ文化・教育の研究方法についてのまとめ （担当：友添 秀則） 第8回： スポーツ科学・応用実践研究方法論 1 データサイエンスの視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：西嶋 尚彦） 第9回： スポーツ科学・応用実践研究方法論 2 バイオメカニクスの視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：浅井 武） 第10回： スポーツ科学・応用実践研究方法論 3 身体活動情報分析論の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：西嶋 尚彦） 第11回： スポーツ科学・応用実践研究方法論 4 運動生理学の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：吉岡 利貢） 第12回： スポーツ科学・応用実践研究方法論 5 コーチング学（個人種目）の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：佐野 淳） 第13回： スポーツ科学・応用実践研究方法論 6 コーチング学（集団種目）の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：浅井 武） 第14回： スポーツ科学・応用実践研究方法論 7 トレーニング学の視点とスポーツ科学研究の方法 （担当：吉岡 利貢） 第15回： 応用実践研究方法論および全体のまとめ スポーツ科学・応用実践研究方法論および全体のまとめ （担当：佐野 淳） 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 各担当教員が指示する。			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： スポーツ文化特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：真田 久
			担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業は他教員とのディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。 1. スポーツ文化複合の概念で古代と近代のオリンピック競技会の変容を理解できるようになる。 2. 近代オリンピック競技会に関して、民族的な競技会から始められた一面もあることを理解する。 3. オリンピック競技会の課題を見つめ、文化としてのスポーツやオリンピックの今後のあり方を構想できるようになる。			
授業の概要 スポーツ人類学の視点から、古代と近現代のオリンピック競技会の特徴的な文化要素（理念、組織、技術文化など）について比較考察することで、文化としてのスポーツの意味や変容を理解し、今後のスポーツ文化のあり方について構想できる能力を涵養する。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念 第2回： 古代と現代の比較1 オリンピックの起源と理念、種目などの比較 第3回： 古代と現代の比較2 聖火と聖火リレーの比較 第4回： 古代と現代の比較3 芸術・詩歌と文化プログラムの比較 第5回： 古代と現代の比較4 不正行為と処罰の比較 第6回： 民族オリンピック1 19世紀のギリシャ独自のオリンピック 第7回： 民族オリンピック2 英国のウェンロック・オリンピック 第8回： 民族オリンピック3 アラスカのイヌイト・オリンピック 第9回： アントワープ1920と東京2020疫病と戦争との関わりの比較 第10回： 東京1964と東京2020の比較1 大会招致の理念と表象、パラリンピック 第11回： 東京1964と東京2020の比較2 国際協力、国際貢献の比較 第12回： 札幌1972と長野1998の比較 大会の理念と教育プログラムの比較 第13回： パリ2024大会 パリ2024の理念と特徴 第14回： ロサンゼルス2028大会 ロサンゼルス2028の理念と特徴 第15回： まとめ 文化としてのオリンピック 定期試験 なし			
テキスト 真田久（2011）19世紀のオリンピア競技祭.明和出版			
参考書・参考資料等 日本オリンピック・アカデミ 一編（2022）2020+1 東京大会を考える.メディアパル			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： スポーツ史特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：真田 久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業は他教員とのディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。 1. 古代から現代までにおける様々な人物による体育やスポーツによる人間形成の考えについて俯瞰できるようになる。 2. 嘉納治五郎の体育教育とスポーツに関する業績について理解する。 3. 今後の社会に必要とされる体育教育やスポーツによる人間形成のあり方について構想できる能力を涵養する。			
授業の概要 古代から今日に至るまで、人間形成に関わる体育やスポーツの考え方について理解するとともに、日本において嘉納治五郎の体育教育やスポーツの発展に果たした業績と理念について理解し、今後の社会における人間形成に有益な体育教育やスポーツのあり方について展望できる能力を涵養する。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念 第2回： 古代の体育・スポーツ 1 ソクラテスとプラトンによる体育と人間形成 第3回： 古代の体育・スポーツ 2 ピンダロスによるオリンピックと人間形成 第4回： 近代の体育・スポーツ 1 グーツムーツによる体育と人間形成 第5回： 近代の体育・スポーツ 2 クーベルタンによるスポーツと人間形成 第6回： 近代の体育・スポーツ 3 貝原益軒による健康と運動 第7回： 嘉納治五郎の体育・スポーツ 1 講道館柔道の創設と人間形成 第8回： 嘉納治五郎の体育・スポーツ 2 東京高等師範学校における体育と教員養成 第9回： 嘉納治五郎の体育・スポーツ 3 留学生受入れとその教育 第10回： 嘉納治五郎の体育・スポーツ 4 国民体育の振興とオリンピック・ムーブメントへの参画 第11回： 嘉納治五郎の体育・スポーツ 5 関東大震災からの復興とスポーツ 第12回： 嘉納治五郎の体育・スポーツ 6 東京へのオリンピック招致の活動とその成果 第13回： 国際機関による体育・スポーツ WHOによるスポーツ政策の歩み 第14回： スポーツ庁による体育・スポーツ スポーツ庁によるスポーツ基本計画の歩み 第15回： まとめ 人間形成と体育・スポーツ 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 岸野雄三ほか編（1979）体育・スポーツ人物思想史. 不昧堂出版			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： スポーツ倫理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：友添 秀則 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど双方向に行う。Google ClassroomやZoomをはじめ、ICTを必要に応じて活用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代スポーツにみられる倫理的諸問題について具体的に理解できるようになる。 2. 現代スポーツの倫理的諸問題を考察するために必要となる倫理的概念や倫理的知識について分かるようになる。 3. 現代スポーツにおける倫理的諸問題の解決の道筋を構想できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>現代スポーツの目覚ましい発展と隆盛は様々な倫理的問題をもたらした。メガイイベントでのテロの脅威は警備費を押し上げ、他方、様々な規制をかいくぐってドーピング問題も後を断たない。この他にも、違法賭博、暴力、スポーツ組織の汚職、性差別や人種差別等の倫理のアポリア（難問）に直面している。本講義では、スポーツの諸問題を倫理的に考察し、解決の糸口を探究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念</p> <p>第2回： 倫理学の基礎知識現代スポーツを考えるための倫理的基礎</p> <p>第3回： スポーツ倫理学の基礎（1） スポーツの倫理学、その基礎づけ</p> <p>第4回： スポーツ倫理学の基礎（2） 現代スポーツをめぐる倫理のアポリアと課題</p> <p>第5回： スポーツ倫理学の基礎（3） スポーツにおける倫理的考察の方法</p> <p>第6回： スポーツ倫理学の適用（1） 勝利と敗北の倫理的意味</p> <p>第7回： スポーツ倫理学の適用（2） 勝利至上主義の功罪と倫理的考察</p> <p>第8回： スポーツ倫理学の適用（3） 薬物乱用とドーピングの倫理的評価</p> <p>第9回： スポーツ倫理学の適用（4） スポーツにおける暴力・暴動の倫理的考察</p> <p>第10回： スポーツ・インテグリティと倫理（1） インテグリティ,コンプライアンス,ガバナンスの意味論</p> <p>第11回： スポーツ・インテグリティと倫理（2） インテグリティの擁護と強化をめぐる</p> <p>第12回： スポーツ・インテグリティと倫理（3） インテグリティとフェアネス</p> <p>第13回： スポーツにおける差別（1） 平等概念の倫理的意味づけ、人種差別</p> <p>第14回： スポーツにおける差別（2） ジェンダーの倫理的考察とLGBTQ</p> <p>第15回： 講義の総括 スポーツ倫理学の対象と方法</p> <p>定期試験 なし</p>			
<p>テキスト</p> <p>友添秀則編（2019）よくわかるスポーツ倫理学. ミネルヴァ書房</p> <p>友添秀則・岡出義則編（2016）新版 教養としての体育原理. 大修館書店</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>到達目標に対して、学習態度 20%、プレゼンテーション 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。</p>			

授業科目名： スポーツ教育学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：友添 秀則 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツは人格陶冶の機能を有し、教育的可能性があると言われてきた。古くはイギリスのパブリックスクールでスポーツは教育の方法として重要な役割を果たした。 本授業では体育とスポーツの概念を比較考察しながら、スポーツと教育の関係について理解を深めるとともに、体育科教育学との比較から、スポーツ教育学の内容を学ぶことによって、スポーツ教育学についての学問的な理解を深める。 1. スポーツ教育学を構成する概念や発展的知識を理解できるようになる。 2. 体育科教育及びスポーツ教育の構造や異同、国内外のスポーツ教育の歴史や特徴について分かるようになる。 3. これからのスポーツ教育のあり方やスポーツ教育の意義について理解できるようになる。			
授業の概要 スポーツは人格陶冶の機能を有し、教育的可能性があると言われてきた。古くはイギリスのパブリックスクールでスポーツは教育の方法として重要な役割を果たした。 本授業では体育とスポーツの概念を比較考察しながら、スポーツと教育の関係について理解を深めるとともに、体育科教育学との比較から、スポーツ教育学の内容を学ぶことによって、スポーツ教育学についての学問的な理解を深める。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念 第2回： スポーツ教育学の歴史 スポーツ教育学の成立とスポーツ教育学研究 第3回： スポーツ教育学の構造 スポーツと教育の関係論の3つの次元 第4回： スポーツ教育の3つの次元（1） Education about sport（スポーツの認識学習）について 第5回： スポーツ教育の3つの次元（2） Education through sport（人格形成及び身体形成）について 第6回： スポーツ教育の3つの次元（3） Education in sport（スポーツによる人格形成及び身体形成） 第7回： スポーツ教育学の対象 発達段階別スポーツ教育学と教育内容の特性について 第8回： 体育とスポーツの概念的考察 歴史的経緯と体育とスポーツの混同、その辞書的定義の明確化 第9回： 体育とスポーツの関係論 機能的概念と実態的概念の探究 第10回： 体育科教育とスポーツ教育 体育科教育学とスポーツ教育学、体育学とスポーツ科学の考察 第11回： 社会とスポーツの変化と教育（1） スポーツの市民権の確立とスポーツ教育の発展（日本を対象に） 第12回： 社会とスポーツの変化と教育（2） 体育科教育からスポーツ教育へ（スポーツ先進諸国を対象に） 第13回： 運動部の地域移行とスポーツ教育（1） 運動部活動の地域連携・地域移行について 第14回： 運動部の地域移行とスポーツ教育（2） 運動部活動の地域連携・地域移行とこれからのスポーツ教育 第15回： 講義の総括 スポーツ教育学への理解 定期試験 なし			
テキスト 友添秀則編（2018）スポーツ教育の時代．創文企画 岡出美則・友添秀則・岩田靖編（2021）体育科教育学入門 三訂版．大修館書店 友添秀則編（2023）運動部活動から地域スポーツクラブ活動へ．大修館書店			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、プレゼンテーション 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： スポーツ運動学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐野 淳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 基本的に、講義形式をとる。なお、学生には毎時、授業内容の骨子を記した資料を配布して授業を進める。また、毎時、次回までに考えてくる内容を伝え、その内容を次時に提出させるようにさせ、講義内容の理解の効果を上げるようにする。ICTを必要に応じて活用する。 1. スポーツ運動学の基本的知識を理解する。 2. スポーツ運動を単なる身体運動ではなく、「わざ」と認識することができるようになる。 3. スポーツ運動ができるようになることが人間開発において重要だと考えられるようになる。			
授業の概要 運動現場を活性化させる上で今日重要視されている、スポーツ運動学の考え方および基礎理論について概説する。具体的には、体育やスポーツにおいて行われる「運動」を「わざ」と認識すること、その「わざ」の習得やその良し悪しの評価および指導上の問題について講義する。			
授業計画 第1回：（ガイダンス） スポーツにおける運動の概念授業の目的、方法、基本的な概念：スポーツ運動学の立場の独自の「（身体）運動」の考え方 第2回： 運動達成と体力、技術 運動における技術の問題 第3回： 身体知 運動のパフォーマンス（達成）と身体知の関係 第4回： ゲシュタルト概念 スポーツ運動のゲシュタルト的認識の問題 第5回： 運動の時空系 運動者が体験する時間－空間座標系 第6回： 運動とわざ スポーツ運動を「わざ」として認識することの意義 第7回： できるの問題性 課題達成現象としての「できる」の問題 第8回： できるの評価 「できる」という状態の評価について 第9回： できるの意味 運動者にとっての「できる」ことの意味 第10回： できるの実存的 content 「できる」現象の人間の側面の問題 第11回： 発生分析 運動現場で行われる創発分析と促発分析 第12回： 現存在分析的運動分析 運動現場で重要な現存在分析の方法について 第13回： 形態学と運動学 スポーツ運動学と形態学（モルフォロジー）の関係 第14回： 現象学と運動学 スポーツ運動学と現象学の関係 第15回：（まとめ） スポーツ運動学と実践現場運動の実践現場の「理論」としてのスポーツ運動学 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 マイネル（1981）スポーツ運動学、大修館書店 金子明友（2005）身体知の形成上・下、明和出版 金子明友（2009）スポーツ運動学、明和出版 佐野 淳（2023）基礎から学ぶ スポーツ運動学、大修館書店			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： スポーツデータサイエ ンス特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西嶋 尚彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ分野におけるデータサイエンスの発展と今後の展望を学修する。 2. スポーツデータの統計学的データ分析の実践力を学修する。 			
<p>授業の概要</p> <p>データ授業方法を適用して、プロスポーツのアナリティクスにおけるゲームパフォーマンスデータの現状とデータ分析方法をデータ資料から講義し、実践する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念</p> <p>第2回： サッカーゲームデータの測定 サッカーで測定される試合データ</p> <p>第3回： 野球ゲームデータの測定 野球で測定される試合データ</p> <p>第4回： バスケットボールゲームデータの測定 バスケットボールで測定される試合データ</p> <p>第5回： 測定で用いる尺度特性 測定の単位と尺度特性</p> <p>第6回： データ分析のプログラミング 統計学的データ分析の方法</p> <p>第7回： 分散分析 原因を探るデータ分析</p> <p>第8回： 相関分析 変数間の関係を探るデータ分析</p> <p>第9回： 回帰分析 因果関係を推定するデータ分析</p> <p>第10回： 構造方程式モデリング 因果構造モデルを検証するデータ分析</p> <p>第11回： 項目反応理論 達成度評価のテスト理論のデータ分析</p> <p>第12回： 機械学習のプログラミング 機械学習のデータ分析方法</p> <p>第13回： 決定木分析 重なる原因を探るデータ分析</p> <p>第14回： ニューラルネットワーク分析 棚見込みニューラルネットワークでデータ分析</p> <p>第15回： まとめ</p> <p>定期試験 なし</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要な資料を毎時間配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。</p>			

授業科目名： スポーツバイオメカニクス特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：浅井 武、明石 啓太
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。 1. バイオメカニクスに関連した、多体動力学や材料科学、流体科学の基礎的知識を習得する。 2. バイオメカニクスの基礎を科学的に理解し、身体運動や生体力学を分析できるようになる。 3. バイオメカニクスに関連した科学的分析や検討を適用し、身体運動等に関する問題解決ができるようになる。			
授業の概要 バイオメカニクスに関連した、マルチボディダイナミクス（多体動力学）や材料科学、流体科学等の基礎的知識を学習する共に、身体運動やスポーツにおける適用例を検討し、それらの理解や実践、指導に応用する能力を習得する。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念（担当：明石 啓太） 第2回： 身体運動における基礎力学1 身体運動に関するキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク（担当：明石 啓太） 第3回： 身体運動における基礎力学2 身体運動に関するキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク（担当：明石 啓太） 第4回： 身体運動におけるマルチボディシステム1 身体運動におけるマルチボディシステムのキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク（担当：明石 啓太） 第5回： 身体運動におけるマルチボディシステム2 身体運動におけるマルチボディシステムのキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク（担当：明石 啓太） 第6回： 身体運動におけるマテリアルサイエンス1 身体運動におけるマテリアルサイエンスのキネティクスの基礎概念を講義、議論グループワーク（担当：明石 啓太） 第7回： 身体運動におけるマテリアルサイエンス2 身体運動におけるマテリアルサイエンスのキネティクスの基礎概念を講義（担当：明石 啓太） 第8回： 身体運動における流体科学1 身体運動における流体科学のキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク（担当：浅井 武） 第9回： 身体運動における流体科学2 身体運動における流体科学のキネティクスの基礎概念を講義、議論、グループワーク（担当：浅井 武） 第10回： 走運動 走運動をバイオメカニクス視点から解説、議論、グループワーク（担当：浅井 武） 第11回： 跳運動 跳運動をバイオメカニクス視点から解説、議論、グループワーク（担当：浅井 武） 第12回： 投運動 投運動をバイオメカニクス視点から解説、議論、グループワーク（担当：浅井 武） 第13回： 打運動 打運動をバイオメカニクス視点から解説、議論、グループワーク（担当：浅井 武） 第14回： 泳運動 泳運動をバイオメカニクス視点から解説、議論、グループワーク（担当：浅井 武） 第15回： まとめ バイオメカニクスに関する基礎的知識を評価する（担当：浅井 武） 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 阿江通良，藤井範久（2002）スポーツバイオメカニクス20講，朝倉書店			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 身体活動情報分析学特 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西嶋 尚彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。 1. アスリートの身体活動の測定・データ分析・評価の研究方法論を学修する。 2. 子供から高齢者の発育、体力・運動能力の発達の測定・データ分析・評価の研究方法論を学修する。			
授業の概要 データ授業方法を適用して、子供、成人、高齢者、アスリートの身体活動情報に関わる測定学、評価学、統計学、アナリティクス、データサイエンスにおけるデータ分析に関する科学的知見、研究方法についてデータ資料から講義し、実践する。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念 第2回： アスリートの身体活動の測定 アスリートの身体活動の測定方法 第3回： アスリートの身体活動データ分析 アスリートの身体活動データの分析方法 第4回： アスリートの身体活動の質的測定 アスリートの身体活動の質的測定方法 第5回： アスリートの身体活動の質的分析 アスリートの身体活動の質的分析方法 第6回： アスリートの身体活動の評価 アスリートの身体活動の評価方法 第7回： アスリートの身体活動の質的評価 アスリートの身体活動の質的評価方法 第8回： トレーニング生活行動の測定 スポーツトレーニング生活行動の測定方法 第9回： トレーニング生活行動の分析 トレーニング生活行動データの分析方法 第10回： トレーニング生活行動の評価 トレーニング生活行動データの評価方法 第11回： 子供の身体発育分析 子供の身体発育データの分析方法 第12回： 子供の体力・運動能力分析 子供の体力・運動能力データの分析方法 第13回： 成人の体力・運動能力分析 成人の体力・運動能力データの分析方法 第14回： 高齢者の生活体力分析 高齢者の生活体力データの分析方法 第15回： まとめ 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： アダプテッドスポーツ学特 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮本 彩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 テーマについて講義を行う。その後講義内容を踏まえ、受講者自身での文献調査やグループワーク(グループ討議)を行い、成果発表を行う。 1. 障がい者スポーツの意義や理念を理解するとともに、アダプテッド・スポーツの概念とその意義について説明できる。 2. 障がい者スポーツの現状と、それを取り巻く問題・課題について理解し、アダプテッド・スポーツの今後の可能性について考えることができる。 3. アダプテッド・スポーツの重要性を理解し、実践(実施)することができる。			
授業の概要 全ての人々が運動やスポーツを楽しむ権利について、障がい者スポーツを例に考えていく。その中で、ルールや用具をその人の障害の種類や程度、健康状態や身体機能のレベルに適合(adapt)させることによって保障するアダプテッド・スポーツの意義と考え方について概説する。また、適切な実態把握に努め、社会的背景や課題も踏まえた中で実践に結びつける方法を探求する。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念 第2回： 障がい者スポーツの意義と理念 障がい者スポーツの意義について受講者自身の考えを共有しながら、理念の重要性を学ぶ。 第3回： パラリンピックの歴史、目的及び意義 グループワークを基にパラリンピックの歴史や目的及び意義を学び、時代ごとの社会背景なども踏まえてその位置づけについて議論する。 第4回： パラリンピックの実施競技の探求① パラリンピックで実施されている競技のルールや参加条件等を調べ、その特徴を学ぶ。①では車椅子競技について調べる。 第5回： パラリンピックの実施競技の探求② パラリンピックで実施されている競技のルールや参加条件等を調べ、その特徴を学ぶ。②では車椅子競技以外について調べる。 第6回： 障がい者スポーツの実態 ①文献調査 国内外の障がい者スポーツの実態を受講者各自が文献等から調査する。 第7回： 障がい者スポーツの実態 ②報告 文献調査から明らかになったことを報告する。 第8回： 障がい者スポーツの実態 ③課題抽出 文献調査ならびに報告から見えてきた国内における課題を抽出する。 第9回： 障害者スポーツと関連施策 国内における障がい者スポーツの関連施策の変遷について学ぶ。 第10回： アダプテッドスポーツの概念 アダプテッドスポーツの概念について学ぶ。 第11回： アダプテッドスポーツについての探求 アダプテッドスポーツの概念の意義や重要性、社会的背景等についてグループワークを通して探求する。 第12回： アダプテッドスポーツのプログラム企画 受講生は数名ごとのグループに分かれ、アダプテッドスポーツの概念を基にしたプログラムを企画する。 第13回： アダプテッドスポーツの実践① 各グループが企画したアダプテッドスポーツのプログラムを実践する。 第14回： アダプテッドスポーツの実践② 各グループが企画したアダプテッドスポーツのプログラムを実践する。 第15回： まとめ 本授業を通して学んだことについてレポートする。 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： 運動生理学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉岡 利貢 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>講義。授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。</p> <p>運動生理学の基礎的な理論についての理解はもとより、最新の研究成果についての情報も収集しながら、実践的・実地的な知識を習得できる。また、これらを理解した上で、健康増進および競技パフォーマンスの向上のための方法について考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>筋の形態的・機能的な特徴の把握、運動時の呼吸循環反応、運動時の代謝とホルモン調節など、様々な観点から運動の生理的機序を習得させ、さらにそれらの各種トレーニングによる効果などについて理解を深めることを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念</p> <p>第2回： 骨格筋の構造と機能 骨格筋の構造の理解、筋線維タイプと競技種目特性</p> <p>第3回： 筋力・筋パワー 筋収縮の様式、筋力に影響する要因とトレーニング効果</p> <p>第4回： 運動とエネルギー供給系 TCAサイクル、ATP-PC系・解糖系・酸化系</p> <p>第5回： 筋エネルギー代謝とトレーニング 各種トレーニングとエネルギー代謝</p> <p>第6回： 運動時の糖質・脂質・蛋白代謝 代謝とは、糖質・脂質・蛋白代謝の概要</p> <p>第7回： 運動とホルモン 筋肥大のメカニズム、筋肥大に影響する要因</p> <p>第8回： 運動と神経 ニューロンと興奮の伝導、運動単位の動員様式</p> <p>第9回： 運動と酸素摂取 呼吸の基礎概念、最大酸素摂取量、酸素借</p> <p>第10回： 無酸素性作業閾値（AT） ATとは、ATを規定する因子、トレーニングとAT</p> <p>第11回： 体温と運動パフォーマンス 体温に影響する要因、運動と体温変化</p> <p>第12回： スポーツと遺伝子 持久系能力に関連する遺伝子、スプリント・パワー系能力に関連する遺伝子</p> <p>第13回： 筋疲労の要因 筋機能の特性、遺伝の影響</p> <p>第14回： トップアスリートの特性 呼吸循環機能、筋腱の構造と機能</p> <p>第15回： 本講義のまとめ</p> <p>定期試験 なし</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要な資料を毎時間配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。</p>			

授業科目名： コーチング学特論 I (個人 種目)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐野 淳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 基本的に、講義形式をとる。なお、学生には毎時、授業内容の骨子を記した資料を配布して授業を進める。また、毎時、次回までに考えてくる内容を伝え、その内容を次時に提出させるようにさせ、講義内容の理解の効果を上げるようにする。ICTを必要に応じて活用する。 1. スポーツの運動現場の具体的問題について理解する。 2. 人数や競技性の観点から分類されるスポーツ種目 (とくに個人種目) の競技特性を理解できる。 3. コーチング上、重要なポイントを実践現場の視点から理解するようになる。			
授業の概要 スポーツの現場において指導者がどのような役割を果たしているか、その不可欠な促発コーチングに関する基本的な考え方および基礎理論について、勝敗の決定方式による競技種目の分類 (測定、評定、判定) を踏まえた上で、とくに個人種目の観点から概説する。			
授業計画 (ガイダンス) コーチングということ (授業の目的、方法、基本的な概念) 指導と促発活動、個人に対する働きかけ 第1回： 運動の「現場」を理解する 運動実践における「人」のパトス的狀態 第2回： 従来のスポーツ種目の分類 個人種目、集団種目、対人種目 第3回： 勝敗決定方式による競技領域の分類 測定競技、評定競技、判定競技 第4回： 個人種目と競技力 記録、演技、プレー 第5回： 個人種目の競技特性 1 勝敗決定の「数値」について 第6回： 個人種目の競技特性 2 動きかた、フォームの意味について 第7回： 個人種目と技術 個人種目における技術の意味 第8回： 個人種目における戦術 競技力の発揮の仕方と戦術の関係 第9回： 理想フォームの追求 理想像の設定とその考え方 第10回： 練習の方法の特徴 技術トレーニング、内観的反復練習 第11回： 促発コーチングの方法 1 課題の与え方、評価の仕方、運動表象の形成のさせ方 第12回： 促発コーチングの方法 2 借問の方法、代行 (潜勢自己運動) 第13回： 個人種目競技者の考え方の理解 練習の組み立て方、「わざ」のとらえ方 第14回： 総括 個人種目特有の考え方のまとめ、整理 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 マイネル (1981) スポーツ運動学、大修館書店 金子明友 (2005) 身体知の形成上・下、明和出版 金子明友 (2009) スポーツ運動学、明和出版 佐野 淳 (2023) 基礎から学ぶ スポーツ運動学、大修館書店			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： コーチング学特論Ⅱ(集団 種目)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：浅井 武 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。 授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。 Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。 1. 身体活動やスポーツの集団種目に関連した、コーチングの基礎的知識や方法を習得する。 2. 集団に関連したコーチングの知識や方法を理解し、身体運動の指導やスポーツコーチングに応用できる。 3. 集団に関連したコーチングの知識や方法を、身体運動の指導やスポーツコーチングに活用し、問題解決に結びつける。			
授業の概要 身体運動やスポーツの集団種目に関連した、コーチングの基礎的知識や方法、マネージメント手法等を学習すると共に、身体運動やスポーツにおけるコーチング適用例を検討し、それらの理解や実践、指導に応用する能力を習得する。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念 第2回： 集団のコーチングに関する基礎 1 集団コーチングの特徴に関して解説、議論、グループワーク 第3回： 集団のコーチングに関する基礎 2 集団コーチングにおける分析方法に関して解説、議論、グループワーク 第4回： 集団のコーチングに関する基礎 3 集団コーチングにおける指導法に関して解説、議論、グループワーク 第5回： 集団のコーチングに関する基礎 4 集団コーチングにおけるプランニング法に関して解説、議論、グループワーク 第6回： 集団のコーチングに関する基礎 5 集団コーチングにおけるオーガナイズ法に関して解説、議論、グループワーク 第7回： 集団のコーチングに関する基礎 6 集団コーチングにおけるマネージメント法に関して解説、議論、グループワーク 第8回： 集団のコーチングにおける応用 1 集団コーチングにおける実践例 1(ポジションング)に関して解説、議論、グループワーク 第9回： 集団のコーチングにおける応用 2 集団コーチングにおける実践例 2(システム)に関して解説、議論、グループワーク 第10回： 集団のコーチングにおける応用 3 集団コーチングにおける実践例 3(オフェンス戦術)に関して解説、議論、グループワーク 第11回： 集団のコーチングにおける応用 4 集団コーチングにおける実践例 4(ディフェンス戦術)に関して解説、議論、グループワーク 第12回： 集団のコーチングにおける応用 5 集団コーチングにおける実践例 5(ゲームプラン)に関して解説、議論、グループワーク 第13回： 集団のコーチングにおける応用 6 集団コーチングにおける実践例 6(ゲーム分析)に関して解説、議論、グループワーク 第14回： 集団のコーチングにおける応用 7 集団コーチングにおける実践例 7(多様な身体活動)に関して解説、議論、グループワーク 第15回： まとめ 集団コーチングにおける基礎的知識を評価 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 中川昭他（日本コーチング学会編）（2019）球技のコーチング学，大修館書店			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： コーチング学特論Ⅲ（ 走・跳・投）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：品田 直宏、梶谷 亮輔 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。授業はディスカッション、グループワーク、課題に対するプレゼンテーションなど、双方向に行う。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. コーチングにおけるトレーニングの組み立て方を理解し説明できる。 2. 走・跳・投種目におけるパフォーマンス構造を理解する。 3. パフォーマンス構造の理解した上でトレーニングを立案し、理論的に組み立て方を説明できる。 			
授業の概要 コーチに求められる役割について理解するとともに、トレーニングを立案、実践するための方法について知る。また、走・跳・投種目のパフォーマンス構造を理解し、トレーニング立案、発表を行う。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念（担当：梶谷 亮輔） 第2回： コーチに求められる役割 コーチとは、コーチングの本質の理解（担当：梶谷 亮輔） 第3回： コーチング学の研究 コーチング学研究における研究事例（担当：梶谷 亮輔） 第4回： コーチングにおけるデータの活用 「走・跳・投」種目のデータの解釈（担当：梶谷 亮輔） 第5回： コーチングにおけるトレーニング実践 トレーニング循環モデルについて（担当：梶谷 亮輔） 第6回： コーチングに求められる専門知識（走） 「走」パフォーマンス構造の理解（担当：梶谷 亮輔） 第7回： コーチングに求められる専門知識（走） 「走」トレーニングの立案（担当：梶谷 亮輔） 第8回： コーチングに求められる専門知識（走） 「走」トレーニングの発表（担当：梶谷 亮輔） 第9回： コーチングに求められる専門知識（跳） 「跳」パフォーマンス構造の理解（担当：品田 直宏） 第10回： コーチングに求められる専門知識（跳） 「跳」トレーニングの立案（担当：品田 直宏） 第11回： コーチングに求められる専門知識（跳） 「跳」トレーニングの発表（担当：品田 直宏） 第12回： コーチングに求められる専門知識（投） 「投」パフォーマンス構造の理解（担当：品田 直宏） 第13回： コーチングに求められる専門知識（投） 「投」トレーニングの立案（担当：品田 直宏） 第14回： コーチングに求められる専門知識（投） 「投」トレーニングの発表（担当：品田 直宏） 第15回： まとめ 「走・跳・投」種目のコーチングについて（担当：品田 直宏） 定期試験 なし			
テキスト 日本コーチング学会（2017）コーチング学への招待			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			

授業科目名： トレーニング学特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉岡 利貢 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教科に関する専門的事項		
授業のテーマ及び到達目標 講義。授業ごとのテーマについて事前・事後の学習課題を与える。Google Classroomはじめ、ICTを必要に応じて活用する。各々の課題に応じたトレーニングを計画し、トレーニングの成否を評価することができる。			
授業の概要 トレーニングの原理・原則および体力に関する基礎的概念をベースに、各種体力（筋力、パワー、持久力など）を効果的に高めるためのトレーニング計画を立てる能力を養う。また、トレーニングの成否を判断するための体力の評価法も学習する。			
授業計画 第1回： ガイダンス 授業の目的、方法、基本的な概念 第2回： トレーニングの基礎 トレーニングの目的・目標、スキルの構造、パフォーマンス構造 第3回： トレーニングの原理 意識性・積極性の原理、全面性・専門性の原理など 第4回： 体力学総論 体力とは、筋力・スピード・持久力の関係 第5回： レジスタンストレーニング① どんな体になりたいのか？、動きとカタチ 第6回： レジスタンストレーニング② 筋肥大のメカニズム、RMとは、筋を肥大させるには 第7回： レジスタンストレーニング③ 神経系の改善とは、メカニカルストレスを高める方法 第8回： プライオメトリックトレーニング① SSC能力とは、SSC能力を測定する方法 第9回： プライオメトリックトレーニング② SSC能力を高めるエクササイズ、プライオメトリックスの設定 第10回： 高強度インターバルトレーニング① HIIT、IFTテストとは 第11回： 高強度インターバルトレーニング② SIT、RST、SSGとは 第12回： 持久性トレーニング 持久性パフォーマンスの決定要因、無酸素性作業閾値と歯 第13回： ペリオダイゼーション① ペリオダイゼーションとは 第14回： ペリオダイゼーション② トレーニング計画作成の実際 第15回： まとめ 各回レポートの紹介、総合レポートについて 定期試験 なし			
テキスト 必要な資料を毎時間配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 到達目標に対して、学習態度 20%、グループへの貢献 20%、課題提出 20%、最終レポート 40%の割合で、評価を行う。			